UDL実践者の成長のルーブリック

Katie Novak & Kristan Rodriguez

取り組みのための多様な方法を提供しましょう

		初級	中級	上級
興味を持たせるためのオプションの提供 (7)	選択や自主性を最適にする(7.1)	何を学ぶか（例：「フランスを勉強しなさい」ではなく、「勉強したい国を選んでごらん」）、どのように学ぶか（例：理解を深めるために本やビデオの使用、教師による指導を使う）、どのように理解していることを表出するか（例：「ポスターに書いても、文章で表しても良いですよ」）のオプションを生徒に提供する。	何を学ぶか（学習基準で示されたもの）、どのように学ぶか、どのように理解していることを表出するか、複数のオプションから選んで決めるように生徒を促す。教師から提供されたもの以外でも学習基準に合う方法があれば、提案するように生徒を促す。	生徒が本当に自分にしっくりくる方法で学習に取り組み、理解し、考えを表出できるように自分で選んだり、代替案を出したりしやすい雰囲気を作り促す。 教師はいちいち指示を出すのではなく、促しやフィードバックを与え、生徒が自分の選択を主体的にモニターすることを助ける。
	関連性・価値・真実味を最適にする (7.2)	生徒が自分との関連や自分にとっての価値・真実味をはっきりと感じられるオプションを提供する。例：生徒の興味を調べ、それに基づいてどう指導するかを決める。	自分との関連や自分にとっての価値・真実味を共有するように生徒を促す。学習基準に合っていて、自分の関心や文化や強みにつながるような指導や評価の方法があればそれを提案するように生徒を促す。例：毎週行う習得チェックや学級の話し合い活動。	生徒が、学ぶ内容と自分の興味の関連を見出し、自分の理解したことを現実世界や真実味のある自己評価に結びつけたりするように励ます。そうすることで、生徒は、教師からコーチングを受けながら、自分の学習をデザインすることができる。例：実験をさせたり、２つの実験から選ばせたりするのではなく、学習基準と科学に対する自分の興味にもとづいて、自分たちの実験をデザインするよう促す
	不安要素や気を散らすものを最小限にする (7.3)	不安要素や集中を妨げるものを減らし、誰もが安心して学習できる場を生み出すオプションを生徒に提供する。例：座席の選択、協働作業のオプションを示す、PBISで期待される行動をはっきり示す。	生徒と協働して学級の規範やPBISで期待される行動を決め、座席、協働作業などに複数のオプションがある教室を自分たちでデザインするように生徒を促す。	生徒が自己主張できるように励ます。何が不安要素や集中の妨げにになるのかを、生徒と協働して突き止める。自分の力が発揮できる創造的な解決策を生み出すように促す。生徒の意見が環境を変える。

CAST | Until learning has no limits™

取り組みのための多様な方法を提供しましょう

	初級	中級	上級
努力や頑張りを続けるためのオプションの提供(8)			
目標や目的を目立たせる(8.1)	目標とその価値の両方を思い出させる「リマインダー」を日常的に組み込んでおく。例：黒板やテストや課題プリントの上部に学習基準を書いておく。	自分たちの熱意と興味に合わせて、協力しながら目標を検討するように励ます。目標達成のために多様なオプションから選ぶように生徒を促す。	学習基準がある場合、学びのプロセスを通じて、その内容をどのように学び、どのように表出し、どのように努力するのかに関して、自分の目標を設定させる。
チャレンジのレベルが最適となるよう課題のレベルやリソースを変える(8.2)	学習内容を学ぶため難易度が明確なオプションを生徒に提供する。例：「南北戦争について学習するために、次の中（リソース）から１つを選んで調べてみましょう」。そのリソースには、高度な原文書もあれば、ビデオなどもある。	学習内容を学ぶために複数のオプションを提供する。オプションの難易度をはっきりさせることで、生徒に学習基準や自分自身の学習方略をふり返るように促す。例：「南北戦争について学習するために、次の６つのリソースから２つを選びましょう・・」。リソースとして、高度な原文書、要約文書、大学教授のビデオやポッドキャストなども考えられる。	学習基準に合わせて、自分の学習内容や評価方法を決めるように促す。また、すでに提供されているオプション以外にも、自分に挑戦するために使えるものがあれば提案するように促したり、自分の興味や熱意に適したリソースを見つけるように促したりする。
協働と仲間集団を育む(8.3)	他の人と効果的に作業する方法を学ぶ機会を生徒に提供する。例：明確な目標、役割、責任をもたせた学習グループを作る。	協働グループワークを大切にする学級を育む。生徒が自分たちでグループを作り、そのグループの規範や責任などを決める。そして、色々な相手を見つけて協働する機会を多く持つ。	協働する学級文化を作る。生徒は多様な考えを統合しながら、目標を設定し、方略を生み出し、互いにフィードバックし合い、習熟を助けるフィードバックで互いの背中を押すことができる。
習熟を助けるフィードバックを増やす(8.4)	生徒が成績や指示に従うことに囚われた考え方をするのではなく、習熟を目指すようにフィードバックを与える。例：生徒が困難に直面したとき、特定の支援や方略を活用するように促すフィードバック。	初歩的なフィードバックだけではなく、生徒が互いに習熟を意識してフィードバックし合い、進歩とさらなる努力や頑張りを支え合うように促す。	中級レベルの実践に加え、習熟を助けるフィードバックを生徒が自力で使えるように促す。そうすることで、生徒は自分を振り返り、自分を舵取りし、困難なことでも自分の成長を追求できるようになる。

CAST | Until learning has no limits™

取り組みのための多様な方法を提供しましょう

		初級	中級	上級
自己調整のためのオプションの提供(9)	モチベーションを高める期待や信念を持てるよう促す(9.1)	頑張ることの価値を教え、どの生徒も自分自身を有能な学習者だと思えるようなことばとフィードバックを使う。	生徒との対話を増やして関係を深め、生徒が学習を本当に自分に結びつけられるようにし、本人の熱意と興味を活用して奮起させ、成功に向けて後押しする。	生徒が有能感を持ち、自分自身と対話すること（セルフ・トーク）を促され、積極的な学びを支え合うような学級文化を作る。
	対処のスキルや方略を促進する(9.2)	生徒が自分の感情をコントロールするときに助けとなるリマインダー、モデル、ツールを提供する。例：対処スキルの例となるエピソードやシミュレーションを使う。違う席に移る、イライラを落ち着かせるツール、マインドフルネス、休憩などストレスを減らすためのオプションを提供する。	困難に対処できるように、生徒が自分の学びの調整に役立つ方略を選べるようにする。例：リラックスするためのスペースを利用する、ヘッドホンをつける、散歩するなど。	生徒が自分を振り返り、自分自身の感情を正しく理解し、適切な対処の方略やスキルを使い、自身や仲間の学びを高められるように促す。
	自己評価と内省を伸ばす(9.3)	生徒が自分の学びを振り返ることができるようなツール、ルーブリックや自己評価などを提供する。	様々な評価方法の例と足場的支援を提供し、生徒が自分に最適なものを見つけ、選べるようにする。例：進歩をモニターするために、自分の行動や学業成績のデータを収集し、測定し、図表化する方法など。	生徒が日常的に学習のプロセスと評価を振り返るような学級文化を作り、生徒が自分を舵取りし、成長し続ける学習者になるようにする。

Novak & Rodriguez | ©2018

提示（理解）のための多様な方法を提供しましょう

		初級	中級	上級
知覚するためのオプションの提供(1)	情報の表し方をカスタマイズする方法を提供する(1.1)	個人差に対応し、多くの生徒のニーズに合うリソースと教材を提供する。例：拡大印刷、余白を増やす、視覚情報など。	デジタル媒体を通じてアクセス可能になるリソースと教材を提供する。生徒が自分のデバイスでテクスト、視覚情報や聴覚情報を活用できるようにすれば、自分のやりやすさに合わせて、ノートをとり、サイズや音量を調整できる。	自分のニーズに最適なリソースと教材を選び（例：ビデオを観る、または配布資料を調べる）、教師にいちいち指示されることなく、自分のやりやすさに合わせて学習を進めるように生徒を励ます。
	聴覚情報を代替の方法でも提供する(1.2)	聴覚的に提示されるあらゆる情報に対して、オプションを提供する。例：ビデオを再生するときに字幕が出るようにする。	内容を学ぶための複数の代替方法を選べるようにオプションを提供し、聴覚情報に頼る必要がないようにする。例：字幕付きのビデオを利用する。	生徒が聴覚情報の代替方法を選べるようにすることに加え、理解を深めるために、定評のある他のリソースを見つけるための考え方を提供する。例：ウェブサイトや著者が信用に足るかどうか判断するためのリソース。
	視覚情報を代替の方法でも提供する(1.3)	視覚的に提示されるあらゆる情報に対して、オプションを提供する。例：範読を聞きながらテクストを読む。	内容を学ぶための代替方法を選べるように複数のオプションを提供し、視覚情報に頼る必要がないようにする。例：読む代わりにオーディオブックを聞く、教師のサポートを受けて小グループで話しながら活動する。	生徒が視覚情報の代替方法を選べるようにすることに加え、理解を深めるために、定評のある他のリソースを見つけるための考え方を提供する。例：ウェブサイトや著者が信用に足るかどうか判断するためのリソース。

CAST | Until learning has no limits™

提示（理解）のための多様な方法を提供しましょう

		初級	中級	上級
言語、数式、記号のオプションの提供(2)	語彙や記号をわかりやすく説明する(2.1)	慣用句、古語、特定の文化に固有の言い回し、俗語などを言い換える。例：定義、視覚情報、説明、例を用いて、明示的に教える。	初級レベルの実践に加え、文脈を手がかりにする方法をわかりやすく指導し、生徒がよく知らないことばを一人で学習できるようにする。	入手可能なリソースを使い、協働作業を行って、重要なことばの本当の使い方を理解できるように励ます。
	構文や構造をわかりやすく説明する(2.2)	（言語や数式の中の）なじみの薄い構文や（図表、グラフ、イラスト、長い説明文や物語の）基になっている構造を分かりやすく示す。例：説明文の接続詞を強調する。	生徒が自力で構文や構造を理解できるリソース（辞書、数学の参照シート、百科事典など）を与える。	教材を予習し、わからない箇所に印をつけるように生徒に促す。そして、知識と理解を積み上げるために適切なリソースを選べるように励ます。
	文字や数式や記号の読み下し方をサポートする(2.3)	情報の理解に苦労する生徒に対して、直接指導、プロンプト、足場的支援が組み込まれた教材を提供する。理解を促進させる代替教材（視覚情報など）を与えることも良い。	理解のバリアを低くし、生徒が、記号の表記法、符号、問題を理解するのを助けるような方略と教材（数学の参照シート、文脈手がかり方略など）を提供する。	生徒が学習した方略を使って自力でテクスト、数学記号の表記法、符号を解読することができるように励ます。
	別の言語でも理解を促す(2.4)	重要な情報やことばについては、代替の教材提示を行う。例：授業が行われている言語（日本の場合、日本語）で提示されている重要な情報は、その言語の能力がまだ十分ではない学習者の第一言語でも提示する。画像とことばを組み合わせて使ったり、反対語を提示したりする。	生徒がアプリやウェブサイト、辞書などのツールを使って、学習教材を翻訳できるようにし、協働して理解を積み上げられるようにする。	生徒が自力でオプションを活用できるようにし、必要に応じてアプリなどのツールを使って、学習教材を翻訳し、協働して理解を積み上げられるように励ます。
	様々なメディアを使って図解する(2.5)	ある形式のシンボル表象（文字による説明や数式など）で示された重要な概念は、代替の形式（具体例、図、ビデオなど）と一緒に示す。	生徒が意味を理解し、理解を深めるために選べる複数のオプションとシンボル表象を提示する。	いろいろな提示のオプションから効果的なリソースを生徒が選べるようにする。全ての生徒が、同じリソースから学ぶ必要はない。

CAST | Until learning has no limits™

提示（理解）のための多様な方法を提供しましょう

		初級	中級	上級
理解のためのオプションの提供(3)	背景となる知識を活性化または提供する(3.1)	全ての生徒に学習内容の背景知識を直接指導する。指導には、視覚情報、オーディオなどのためのオプションを併せて用いる。	関連する予備知識を与えたり活性化したりするオプション、あるいは他の不可欠な知識と関連付けるためのオプションを提供する。例：先行オーガナイザー（KWL法、概念マップなど）を利用し、適切な背景知識を構築することができるリソースを選ぶように生徒に促す。	生徒が自分たちの背景知識に欠けているものに気付き、その知識を構築する適切なリソースを選べるようにして、授業の目標に到達できるように促す。例：診断的な評価から始め、それを振り返り、学習におけるギャップを埋めるための方略を考えるように生徒に促す。
	パターン、重要事項、全体像、関係を目立たせる(3.2)	知識の中で最も重要なことを認識できるようにわかりやすいヒントや促しを与える。例：アウトライン、グラフィックオーガナイザー、蛍光ペンを使うことを教える。	知識の中で最も重要なことを認識できるようにオプションと複数の方略を提供する。例：アウトライン、グラフィックオーガナイザー、蛍光ペン、ワードクラウドアプリ、その他のオーガナイズツールの使用を許可する。	生徒が自分を振り返り、重要な知識を目立たせる方略のうち自分に最も効果的だったものを特定させる。そして、パターン、重要事項、全体像、関連の理解を助ける方略を自力で選べるように励ます。
	情報処理、視覚化、操作の過程をガイドする(3.3)	処理と視覚化を促す教材、方略、ツールを全ての生徒に提供する。ツールには、操作物（数積み木など）、用語集、グラフィックオーガナイザーなどが含まれる。	処理と視覚化を促すために用いる複数の教材、方略、ツールのオプションを提供する。例：視覚的に書き留めるためのオプション、画像を探すためのテクノロジー、操作物を用いるなど。	生徒が自分を振り返り、情報処理と視覚化、操作を導くための最も適切な教材、方略、ツールを自力で選ぶように促す。必要に応じてさらに他のツールと方略も探すように促す。
	学習の転移と般化を最大限にする(3.4)	生徒が持っている知識を他の領域や他の状況に転移させる方略をわかりやすくやってみる。例：その知識を他の授業でどのように使うことができたか、その知識は異なる内容同士を比較するのにどのように使えたかを示す（本文の比較など）。	複数の異なる分野にまたがって行うプロジェクトなどの有意義な転移のオプションを提供する。その中で生徒は真実味のある関連を理解し、知識を他の教科や実際の場面に適用することが意味を持つ。	生徒が内容の理解を深めたり、自身で本物のプロジェクトを計画したり、自分たちの知識や理解を自分にとって真実味のある現実世界の状況で表出したりするために、授業で学習した知識やスキルを適用するのを促す。

CAST | Until learning has no limits™

行動と表出のための多様な方法を提供しましょう

		初級	中級	上級
身体動作のためのオプションの提供(4)	応答様式や学習を進める方法を変える(4.1)	同じ課題に対する応答様式や学習を進める方法として、複数のオプションを提供する。例：他の生徒が手書きするときに、一部の生徒はiPadを用いる。	同じ課題に対する応答様式や学習を進める方法として、複数のオプションを提供する。例：一部の生徒は、iPad、別の筆記用具、キーボード、音声認識ソフトを使う。	全ての課題において、生徒が自分のデバイスを用いて応答したり、教材を扱ったりできるようにする。例：ヘッドホン、キーボード、操作物、操作レバーなど。
	教具や支援テクノロジーへのアクセスを最適にする(4.2)	IEPや504で（日本の場合、個別の指導計画や合理的配慮）で必要性が示されれば、支援テクノロジーを用いて、学習を進め、学習に参加し、考えなどを表すことを許可する。	個人差に関係なく、全ての生徒に対して、iPad、音声認識ソフト、個別デバイスなどの支援テクノロジーを使用できるオプションを提供する。	生徒が自分の理解やスキルを表出するために、さらにカスタマイズされたオプションを得られるようにする。そのために、生徒が自分に必要なテクノロジーを理解し、適したものを選ぶように促す。
表出やコミュニケーションのためのオプションの提供(5)	コミュニケーションに多様な媒体を使う(5.1)	評価時に応答の方法を複数提供し、バリアがない状態で自分の理解していることを表出できるようにする。従来型のテストを受けることは１つのオプションだが、口頭でのプレゼンや小論文を書くこともオプションになる。	自分の理解していることを表出するための複数のオプションを生徒に提供する。そして、生徒本人からも評価方法を提案させ、評価で重視しているのは、特定のテストで良い点を取ることではなく、自分が理解していることを示すことであると分からせる。生徒は文章、オーディオ、ビデオ、マルチメディア、プレゼン、その他の方法を使って自分の理解を示すことを選んでも構わない。	生徒に学習基準や能力・実力準拠のルーブリックを振り返らせ、学習基準に到達したことを示せる本物の革新的な成果を自力で生み出せるように励ます。
	制作や作文で多様なツールを使う(5.2)	自分の理解していることを示すのに助けとなるツールや方略を複数提供する。例：昔ながらの鉛筆と紙を用いた回答を認めたり、本人のデバイスを使ったマルチメディアのプレゼンを認めたりする。	生徒の理解を表出しやすくするためのツールと方略を複数提供する。例：従来型の筆記や、ブログソフト、ThingLinkやEmazeなどのマルチメディアツールを用いた応答様式を認める。	課題を行う時や自力で何かの成果を生み出す時、生徒が自身を振り返り、自分の学習を助けるツールと材料を選べるように励ます。これらのツールや材料は、生徒の学びをサポートすると同時に、理解やスキルを表出する上で、より高度なオプションに挑む姿勢を促す。こうした挑戦の中で生徒は、授業中に触れたツールを必要に応じてさらに発展させて使い、アクセシブルで取り組みやすくしていく。
	練習や実践での支援のレベルを段階的に調節して流暢性を伸ばす(5.3)	教師主導から協働グループ、そして自立した取り組みへと進展する。足場的支援モデルを実施し、徐々に生徒に責任をもたせる。例：協働ワークでは、チームメンバーに特定の仕事を任せ、自力での取り組みに向けて進展をモニターするか、教師主導の指導から問答教授法へ移行する。	学習プロセス全般で、サポートと足場的支援のためのオプションを提供する。協働グループでの活動や自立した取り組みを行う際に、理解を積み上げられるリソースを選ぶように生徒を促す。例：協働グループ活動の中で、役割を自分で選ぶように励ます。授業の話し合いで、協働してルールや構造を作るように促す。	生徒がより厳しい目標を設定して生産的に挑み、楽をするためでなく進歩するためのツールとして支援を活用するよう励ます。教師に対してフィードバックしたり、指導を方向づけたりすることも促す。日常的なモニタリングや振り返りが組み込まれているグループ活動の中で、役割と期待値も自分で決められるように励ます。

CAST | Until learning has no limits™

行動と表出のための多様な方法を提供しましょう

初級 → 中級 → 上級

実行機能のためのオプションの提供(6)	適切な目標を設定できるようにガイドする(6.1)	明確な目標を示して、期待されているレベルか、それ以上になるためにしなければならないことを生徒がはっきりと理解できるようにする。例：黒板や課題プリントに学習基準を示す。授業を通して、これらの学習基準と目標をわかりやすく示し続ける。	目標に設定したスキルを生徒が習得できるように環境を整える。例：学習基準を黒板や課題プリントに書いて、目標設定のプロセスと成果のモデルや例も示す。そうすることで、全ての生徒が学習基準に向けて取り組みながら、自分に合わせた目標設定ができるようにする。	自分にあった学習計画を立てるように生徒を励ます。その計画には学習基準に沿った目標と、自分の強いところを最適化し、さらに苦手な領域にも対応する行動計画や方略を含むものである。
	プランニングと方略の向上を支援する(6.2)	方略的なプランニングのプロセスを促進する。例：全ての生徒に、課題や提出期限日のチェックリスト、プランニングの書式を渡し、生徒が段取りをつけて取り組めるようにする。	方略的なプランニングのプロセスを促進する。例：段取りをつけて取り組むためのツールを提供するだけでなく、生徒が自分の目標を達成するための方略を作り出すことができるように足場的支援を提供する。	生徒が自分を振り返り、自己評価し、学習基準に照らして自分で決めた目標を達成するために自分のやりやすさに合わせて行動計画を作れるよう励ます。例：選んだ課題を終えるのにどのくらいの時間とリソースを必要とするかを考え、自分の目標を達成するために、個人の終了予定日と作業リストを作るように励ます。
	情報やリソースのマネジメントを促す(6.3)	足場的支援とサポートを提供し、まとめ方を助ける援助を行う。例：全ての生徒にノートをとるための書式を与える。	ノートをとるための様々なグラフィックオーガナイザーや方略といったまとめ方を助ける複数の足場的支援、サポート、リソースを提供する。	生徒が自分を振り返り、自己評価し、自力で最適な支援やリソースを選べるように促す。それによって情報やリソースを整理でき、学習基準に照らして自分で決めた目標を達成できるようにする。
	進捗をモニターする力を高める(6.4)	形成的なフィードバックツールを提供し、自身の進捗をモニターできるようにする。例：評価チェックリスト、採点ルーブリック、生徒の作品や取り組み、それに対しての教師の所見の例をいくつか提供する。	生徒に教師・仲間・本人から、フィードバックを受ける複数の機会を提供する。これらのフィードバックは、評価チェックリスト、採点ルーブリック、模範などの様々なツールを使って行われる。	生徒が、教師や仲間も含む複数のリソースを使って、日常的に自分のパフォーマンスを振り返り、フィードバックを得て、取り組みを改善できるように促す。そうすることで、成長を促進し強調する。

CAST | Until learning has no limits™